

# 環境のあゆみ

# 2023

メロディアン株式会社  
ホームページ  
<http://www.melodian.co.jp>



# 会社概要

代表者	代表取締役社長 中西 優紀雄
創業	昭和 33 年 12 月 6 日
設立	昭和 36 年 9 月 20 日
資本金	9,850 万円
売上高	113.1 億円 (2023.03)
従業員数	290 名 (2023.04)
事業内容	コーヒーフレッシュ、シロップ、美と健康飲料、及びデザート等の食品製造販売、化粧品販売、衛生用品の製造販売

## 沿革 (環境関連を中心に掲載)

昭和33年12月	大阪府八尾市に日興乳業創業
昭和36年 9月	日興乳業株式会社を設立
昭和61年11月	三重工場建設 敷地面積1万坪40億円投資
平成 元年 6月	メロディアン株式会社に社名変更
平成 2年 4月	国際花と緑の博覧会「MELODIAN LAND」出展
平成 3年 1月	環境対策委員会を発足
平成 4年 4月	『環境対策委員会のあゆみ』(現:環境のあゆみ)を発刊
10月	株式会社メロディアンメンテ設立
11月	『日本高山植物保護協会(JAFPA)』へ法人入会と関西支部設立に協力
平成 5年 3月	社用車のディーゼルエンジン車からガソリンエンジン車への全面切替を決定(NOx 対策)
平成 6年 6月	三重工場排水処理設備の増設
平成 8年 5月	三重工場へ高温焼却炉を設置(ダイオキシン対策)
平成10年 3月	社用車のガソリンエンジン車輦への全面切替完了と低公害車導入の決定
12月	三重工場が ISO9002 の認証を取得
平成12年 1月	ISO14001 を全社一斉認証取得
平成13年10月	認証取得範囲を企画開発部門まで拡大し ISO9001 へ更新
11月	三重工場の焼却炉運転の全面停止(平成14年3月撤去)
平成14年 1月	三重工場から埋め立て処分場へ直接排出される廃棄物の撲滅達成
2月	三重工場排水処理施設へ膜濾過設備を導入
12月	三重工場にて HACCP 承認(清涼飲料水ライン、他)
平成17年 1月	社用車へハイブリッド車の導入を開始
11月	株式会社メロディアンハーモニーファイン設立
平成19年 3月	三重工場へ中身入ポーション破砕分別設備を導入
10月	研究所開設
平成20年 4月	ISO14001 認証取得範囲から営業所等を除外し準適用組織化
平成22年 2月	三重工場へ LPG 仕様のボイラー設備を導入
平成27年 2月	製造委託先との業務提携にて名古屋工場でのポーション製品の生産開始
11月	三重工場 A 重油仕様ボイラーを LNG 仕様へ更新
平成28年 2月	三重工場が FSSC22000 の認証を取得
9月	関東工場竣工
平成29年 8月	関東工場が FSSC22000 の認証を取得
平成30年 12月	関東工場が ISO14001 の認証を取得
令和 3年 12月	ISO14001 の認証返上を行い、今までの規格運用実績をベースに、独自運用開始

## 事業所一覧

本社	〒581-0833	大阪府八尾市旭ヶ丘 1-33
研究所	〒581-0869	大阪府八尾市桜ヶ丘 2-128-1
東日本事業所	〒151-0053	東京都渋谷区代々木 4-29-4(西新宿ミノシマビル 3F)
西日本事業所	〒581-0833	大阪府八尾市旭ヶ丘 1-33
九州営業所	〒812-0014	福岡市博多区比恵町 1-30(サンいずみビル 3F)
三重工場	〒518-1151	三重県伊賀市白檜 2816-6
関東工場	〒372-0011	群馬県伊勢崎市三和町 2742-1

# 経営理念

## —— 社 是 ——

1. 信頼され、愛される人間になろう。
1. 信頼され、愛される商品をつくろう。
1. 信頼され、愛される企業になろう。

## —— 基本方針 ——

当社は、豊かな食文化の創造をめざし、真実と信頼の経営を展開して、顧客、取引先ならびに社員の繁栄と幸福に最大限寄与することにより、以下の5項目を基本方針とします。

- 一、信頼される商品の提供、および誠実かつ積極的な社員の人間形成を通して、企業の信頼性を向上させます。
- 一、市場環境の変化に対応した着実な規模の拡大と、経営管理システムを強化・徹底して、収益構造を強化します。
- 一、顧客第一主義にもとづいた、『おいしさはしあわせ』『美と健康』をテーマに創造性豊かな新製品の開発を目指すとともに新市場開拓をより一層推進します。
- 一、法令遵守を基本に、環境保全にも積極的に取り組み、広く社会や顧客に支持される企業づくりを目指します。
- 一、働き甲斐の創造につながる、明朗かつ風通しのよい職場環境づくりを推進します。

# 環境方針

## 1. 基本理念

私たちメロディアングループは、高山植物保護活動をはじめとして、地球環境の保全に積極的に取り組み、社会や顧客から支持される企業作りを目指し、「物を大切に」「資源を大切に」「自然を大切に」を基本に、環境負荷の低減を図ります。

## 2. 基本方針

- 1) 当社独自に構築した環境管理システムの維持・運営を行い、外部取引先様と共に環境保全活動を推進し、環境汚染の防止と環境負荷低減の継続的改善を図ります。
- 2) 環境関連法規制、地域との協定などの順守と、これらの管理基準を整備し、管理状態の維持・向上を図ります。
- 3) 環境保全活動の目的・目標を定め、これを定期的に見直すと共に、その達成を図ります。
- 4) 無駄の排除・抑制及びリサイクルなどによる、資源の有効活用を図ります。
- 5) 電力・燃料など、エネルギーの効率的利用を推進し地球温暖化防止を図ります。
- 6) 従業員への教育、社内広報活動などを実施し、全ての従業員に対して、環境方針の周知及び環境に関する意識の向上を図ります。
- 7) この環境方針を社外へも公開し、達成を図ります。

# 環境配慮活動への貢献

## FSC(森林認証制度)適合商品の使用

FSC の森林認証制度は、森林の管理や伐採が、環境や地域社会に配慮して行なわれているかどうかを、信頼できるシステムで評価し、それが行なわれている森林を認証します。

そして、その森林から生産された木材や木材製品(紙製品を含む)に、独自のロゴマークを付け、市場に流通させています。

FSC のロゴマークの付いた製品は、「適切に管理された森林」に由来する製品であると保証された、「環境配慮型の商品」です。



これらロゴは、FSC が認めている適格な原材料(FSC100%、FSC ミックス、FSC リサイクル等)が複数使用されている製品に付けられるものです。

弊社は FSC ミックスに認証されている商品での製造を実施し、これにより適切な森林管理を行っている業者を支援することができ、ひいては世界の森林保全の貢献につながっていると考えております。



## 地域美化活動

当社独自で「クリーンウォーキング」として、毎月第 2 水曜日の朝に、事業所周辺の清掃を行っており、感染症対策を取りながら、2022 年度も引き続き、継続して活動して参りました。



※『クリーン・やおウィーク』として八尾市主催で 2014 年度から実施されている一斉清掃キャンペーンにも参加しております。

## 日本高山植物保護協会支援活動

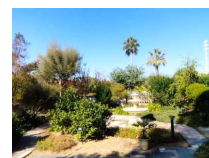


1992 年(平成 4 年)の日本高山植物保護協会へ法人会員として入会以来、メロディアンは高山植物保護活動を通じて、環境保全活動に対する啓蒙活動を継続してきました。

メロディアン本社が関西圏にあることから、JAFPA 関西支部設立のお手伝いに参加させて頂いたご縁もあり、単に法人会員として入会し、経済的な支援に留まるのではなく、入会当初から関西支部の理事として社員を派遣させて頂き、また従業員や取引先様も会員として参加させて頂くなど、共に高山植物を通じて自然環境の大切さと環境保全への啓蒙活動に参加させて頂いております。

2022 年度は 11 月 12 日に、環境学習会「咲くやこの花館見学」が実施されました。当日は、熱帯雨林植物室や高山植物室など屋内栽培の貴重な植物展示と、屋外にて栽培できる植物を集めたテーマ別の展示など、多くの見学場所があり、世界の気候の違いによる成り立ちや生態が違う植物の多様性認識から、更なる環境意識の向上につながる貴重な学習会となりました。

2023 年度は、関西支部にての観察山行活動再開予定です。  
JAFPA ホームページ <http://www.jafpa.gr.jp/>



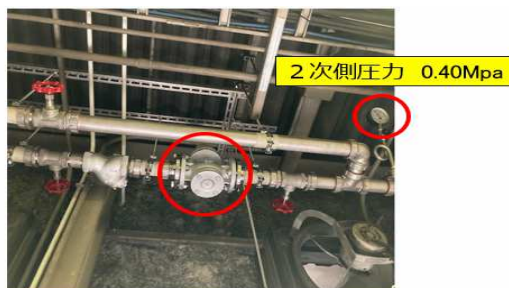
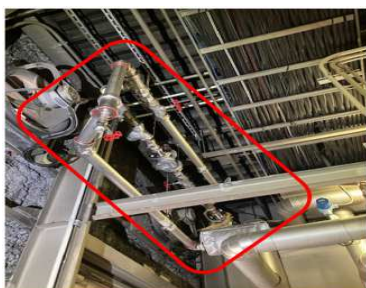
# 三重工場の省エネルギー、環境への取組

メロディアの工場では、これまで企業活動に直結する様々な省エネルギーに関する取組を実施しています。ここでは、運用の見直しによる省エネとダウンサイジングの取組についてご紹介させていただきます。

## 蒸気使用量削減の取組

製造に内容物の殺菌工程がある為、蒸気は工場全体の原油換算のエネルギー使用量でも多くの割合を占めており、蒸気使用量の削減は優先順位の高い改善項目でした。

当初、新設の工場棟の必要圧力は、0.4Mpa の為、製造現場側に減圧弁を設けていましたが、生産時以外にも0.8Mpa 程の高い圧力を保持していました。送り元のボイラー室に減圧弁を追加する事で、保圧の為の蒸気使用量を抑制する事が出来、昨年比較で約 20%、年間 350 万円のコストダウンが図れております。



## LNGボイラー効率運転による省エネ

蒸気使用量の削減取組と並行し、より効率的な運転が出来る様ボイラーの制御見直しを行いました。

ボイラーは発停を減らし、低燃焼、中燃焼帯で長時間稼働する方が省エネにも繋がる為、供給圧力に影響が出ない範囲で、1台あたりの蒸気発生量を調整致しました。

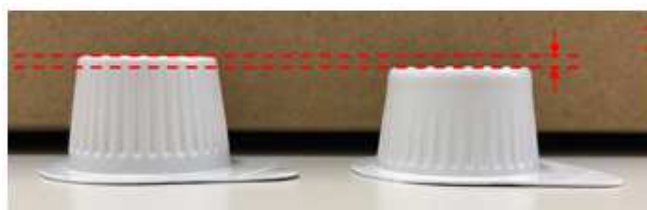
変更後、1台あたりの燃焼時間が伸び、LNG 1kgあたりの蒸気発生量も約 5%増加致しました。

燃料価格が高騰している為、運用の見直しによる省エネはコスト面でも有益な改善と言えます。

## ダウンサイジング（容器高さ、袋・段ボールサイズ変更）への取組

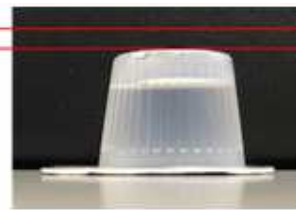
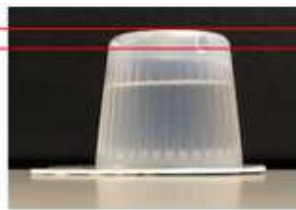
世界的な原材料価格の高騰は、弊社の事業にも大きく影響を与えており、またプラスチックの使用量削減といった環境への取り組みは、全社をあげての課題でもありました。

主力商品であるポーション容器のフレッシュ、シロップのダウンサイジングを行い、容器の高さを変更する事により、袋サイズ、段ボールサイズを縮小する事が出来、包材の使用量が削減出来ております。お取引先様の環境保全活動にも寄与することができ、今後も引き続き取り組んで参ります。

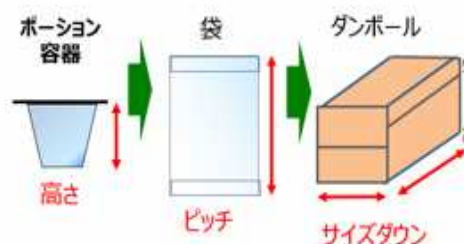


18P:195mm → 185mm

50P:260mm → 250mm



▲10mm



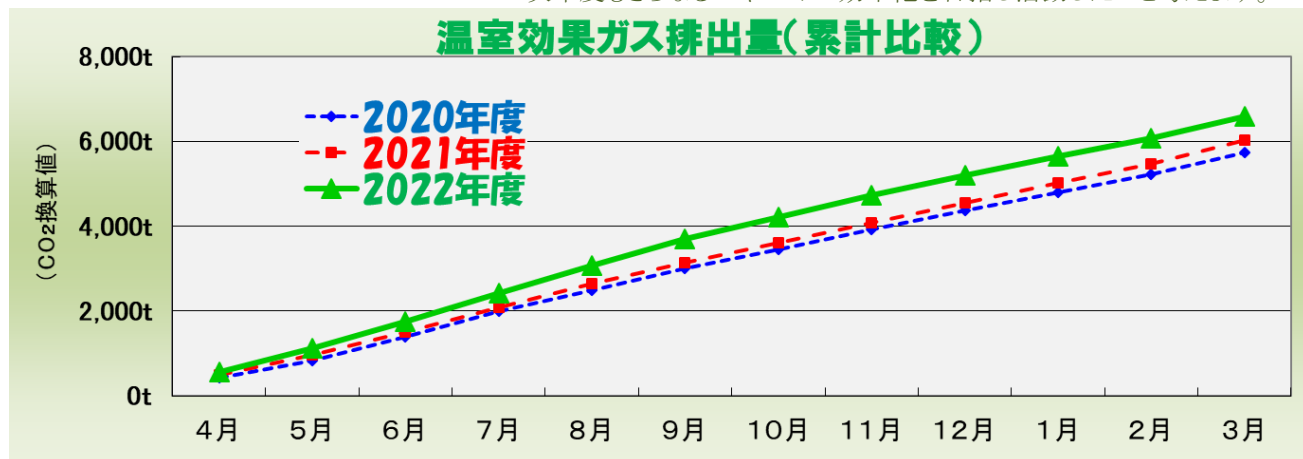
# 温室効果ガス排出量の推移（2020～2022年）



事業活動に伴う温室効果ガス(GHG)の排出量低減を目標に、様々な活動を実施してきました。

生産量は国内の経済活動が活発化するのに合わせて大きく増加し2021年度に対してエネルギー使用量が大きく増えましたが、一部工場においては原単位の抑制につなげており、効率化の推進も行っております。

次年度もさらなるエネルギー効率化を目指し活動したいと考えます。



## 排水処理の管理状況（三重工場）

三重工場の生産ラインから排出される排水の管理状況は、昨年の報告以降も下表の通り、関連する法規制の基準値を下回って問題なく推移しています。

また、関東工場もほぼ同様の管理を実施しており、基準内で問題なく推移しています。

■ 三重工場の排水処理後の測定値(実績) 単位：mg/L (但し、水素イオン濃度は単位なし、大腸菌群数は個/ml)

測定項目(基準値)	測定サンプル採取月と測定結果											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水素イオン濃度 (pH5.8~8.6)	7.10	7.40	7.60	7.40	7.40	7.20	7.40	7.40	7.20	7.60	7.40	7.40
生物化学的酸素要求量 (25 以下)	1.10	0.5 未満	0.70	0.60	0.5 未満	1.10	0.5 未満	0.70	0.90	1.70	0.5 未満	0.5 未満
化学的酸素要求量 (なし)	18.00	11.00	11.00	12.00	8.60	9.80	8.60	10.00	11.00	8.70	5.50	7.40
浮遊物質 (90 以下)	5.00	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	5.00	1 未満	1.00
カルキ抽出物質 (30 以下)	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満
全窒素 (120 以下)	13.00	1.00	0.90	22.00	0.7 未満	14.00	0.7 未満	1.00	1.50	1.00	0.7 未満	0.8 未満
全リン (16 以下)	0.06	0.01	0.05	4.00	0.01 未満	1.50	0.01 未満	0.02	0.03	0.05	0.01	0.01
大腸菌群数(3000 以下)	30 未満	30 未満	30 未満	38.00	30 未満	42.00	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満
鉄 (10 以下)	0.80	0.30	0.40	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.1 未満	0.40	0.10	0.20
マンガン (10 以下)	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
アモニア、アモニア化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物 (100 以下)	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	1.0 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	1.0 未満	1.0 未満
亜鉛 (2 以下)	[年1回測定項目] 0.03 (2023年3月採取)											
基準適合判定	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合

# 環境目的・目標の達成状況

2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)

環境目的・目標に対する達成状況は次の通りです。

環境目的	環境目標	評価	コメント
品質管理の維持向上 コンプライアンスの 徹底	クレーム件数の低減		重大・工程起因クレーム件数ともに目標達成しております。
	不適合件数の低減		残念ながら一部の工場では未達となりました。
	人的ミス件数		いずれの工場においても目標達成です。
CO2排出量 データの把握	環境データの 継続把握		温室効果ガス排出量換算の元データ及び、環境データの計算・把握を継続中です。
物流品質の向上	配送クレーム 発生率低減		年間平均で、目標を達成しております。
更なる効率化 生産体制の再構築	エネルギー原単位 低減		昨年度に比べて生産アイテムが変化し、効率化含め、一部工場で目標達成しております。

(用語説明) エネルギー原単位＝製造量当たりのエネルギー消費量のこと

## 環境のあゆみ2023作成にあたり

この環境レポート「環境のあゆみ」は、環境保全活動の報告を主な目的とし、2002年度(平成14年度)より一般の方々へ公開しております。

また、紙資源保護を目的に Web での公開を基本としております。作成単位を極少化するために、社内作成しておりますので、印刷インクや用紙など素材面での対応が十分出来かねている現状ではございますが、重ねてご理解いただきたく存じます。

今回の「環境のあゆみ2023」の報告対象期間は2022年度(2022年4月1日～2023年3月31日)の活動内容と結果を基本としております。

活動範囲は主にメロディアン株式会社(全事業所)と株式会社メロディアンメンテの環境保全活動です。

昨年発行の「環境のあゆみ2022」に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せ頂きありがとうございます。

読者の皆様の貴重な声を今後も環境保全活動と報告書作成に活用させて頂きたく、今回も簡単なアンケートをご用意いたしましたので、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せ下さい。(発行担当:環境対策委員会事務局)

